

TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします

豊里



大きく育てと願い込め田植え 6月1日

豊里小・中学校では、みやぎ登米農協青年部の協力の下、同校校庭で「バケツ稲の田植え」を開催しました。田植えは、地域産業である米作り体験を目的に実施されたもので、同校3年生74人が参加。児童は、同青年部の皆さんが育苗用の土を入れたバケツに水を入れ、手で代かき。仕上げは、大きく育つようにと願いを込めながら、三角形の形に苗を植えました。子どもたちは、初めての体験に大喜びでした。

被災地の早期復興を願い募金 5月24日

中津山小学校(小野寺由子校長)6年の久保舞桜さん(追土地)、千石桃嘉さん(栗ヶ崎)、黒田璃々花さん(清水)が、市社会福祉協議会米山支所を訪れ、熊本地震災害募金と手紙を千葉春利米山地区委員長に手渡しました。これは、小野寺校長の「私たちに何ができる?」の呼びかけに、3人が中心となり運動会で募金活動をしたものです。集めた募金4万6231円と応援の手紙は、社会福祉協議会を通じて被災地へ届けられます。



米山

迫



今季の活躍を心に誓う結団式 5月17日

登米市スポーツ少年団迫支部の結団式は、迫体育館で開催され、25団体総勢約500人が各団のユニフォーム姿で参加しました。結団式では、活動内容や目標、指導者などへの感謝の言葉を述べました。各団を代表して5人が壇上で団員綱領を朗読し、全員で力強く唱和しました。会場には、多くの保護者らが来場し、子どもたちの勇姿に拍手を送っていました。

石越



伝統を引き継いで華麗に舞う 5月19日

石越小学校では、5・6年生が「鳥舞」を毎年運動会で演舞しており、2学年合わせて75人が練習に励みました。鳥舞で身に付ける兜は、5年生が4年生の3学期から作り始め、5月初旬までかかり仕上げたものです。児童は鳥舞の衣装を身にまとい、講師が演奏する神楽囃子に合わせ、真剣な面持ちで練習していました。練習最終日であるこの日、児童と講師は練習に一層熱が入っていました。

運動会で響く迫力ある吹奏楽 5月14日

登米中学校と登米高校の吹奏楽部が、登米小学校大運動会で演奏しました。これは、宮城県教育委員会の「みやぎの志教育支援事業」の指定を受けた小・中・高の連携教育の一環として実施されました。中・高生のさわやかで迫力のある演奏に合わせ、小学生は元気いっぱい行進。来場者は一体となった小中高生に、大きな拍手を送りました。



登米

楽しませたいと竹細工を展示 5月10日～31日

東郷公民館では、佐々木正俊さん(原)の竹細工を教養娯楽室に展示しました。この展示は、佐々木さんが来館者に楽しんでもらいたいとの思いから実施。展示された竹細工は、茶杓やつい立て、一輪挿しなど、どれも目を奪われるような作品です。生け花は、同公民館事業の生け花・パッチワーク教室の講師である渋谷笑子さん(北本郷)の作品。生け花がより一層、竹細工それぞれの個性と魅力を引き立てています。



南方

東和



交通事故事故ゼロ6千日達成 5月18日

米谷地域づくり推進協議会(秋葉茂雄会長)は、交通事故ゼロ6千日を達成し、東和総合支所で市交通安全対策協議会長と県登米警察署長から褒状が贈られました。褒状を受領した秋葉会長は、「私たちだけでなく、皆さん一人一人が交通安全に取り組んだ結果です。今後も記録を伸ばしていきたい」と話しました。同地区では、1999年12月14日から交通事故が発生していません。

津山



子どもの成長を願う稚児行列 4月29日

柳津虚空蔵尊では、33年に1度の秘仏ご開帳記念として稚児行列を柳津地区で開催し、3～8歳児65人が参加しました。当日は、きれいにお化粧した子どもたちが、華やかな衣装をまとい、保護者らと一緒に柳津小学校からみやぎ北上商工会津山支所までの区間をゆっくり練り歩きました。沿道には多くの住民が集まり、かわいらしい姿の子どもたちを温かいまなざしで見つめていました。

ふるさとの思い出を懐かしむ 5月21日

東京中田会(小峯喜八会長)の総会は、東京都新宿区のホテルグランドヒル市ヶ谷で開催され、市から市長や市議員ら7人が出席しました。懇親会では、中田産のキュウリなど地元食材を使用した料理や、登米総合産業高校と伊豆沼農産のコラボ商品「初恋さくら」がテーブルに並びました。参加者は、おいしい料理に舌鼓を打ちながら、ふるさとの懐かしい思い出や近況を語り合いました。



中田